

今年(きょうねん)は甲午(こうま)、夢(ゆめ)に向かい伸びる年(とし)。何事(なにごと)においても発展(はつぜん)していく年(とし)といわれている。

若者(わかしよ)たちが連れだつての初詣(はつげ)風景(ふうけい)も何(なに)やら嬉しいこと(こと)である。日本人(にっぽんじん)の敬神(けいしん)崇祖(すうそ)の心(こころ)は、瑞々(みずみず)しくつながっている(つな)と感ずる(か)ずる。

改正教育基本法(せいせいこくこくほんぽう)により、宗教(しゆく)養教育(やうこく)の充実(ちゆじゆ)が図(と)られた結果(けいこ)も、現在(げんざい)使用(しゆじゆ)されている各社(かくしゃ)の中学教科書(ちゅうがくこくこ)は、日本(にっぽん)古来(こらい)の信仰(しんぎやう)、自然崇拝(しぜんすうばい)、祖先崇拝(そぜんすうばい)、古事記(こことぎ)の八百萬(やおもも)の神々(かみかみ)、宮中祭祀(みやちゆうさいし)の詳細(しゆじゆ)などの記述(きじゆ)とともに、明治(めいし)天皇(てんかう)の「とこしへに民(たみ)やすかれとい(い)ゆるなるわが世(よ)をまもれ伊勢(いせ)のおほかみ」という御製(ごせい)が記(き)された教科書(こくこ)もある。

昨年(こぞ)は20年(にじゅうねん)に1度(いちど)の式年遷宮(しきねんせんぐう)の年(とし)で、伊勢(いせ)神宮(じんぐう)参拝者(さんぱいしや)は1300万人(まんにん)を超(こ)えたと報道(ほうど)された。国民(こくみん)10人(じゅうにん)に1人(ひとり)がお参(ま)りしたことになる。学校(がく)の児童生徒(じゆうせい)たちの伊勢(いせ)神宮(じんぐう)参拝者(さんぱいしや)は、昭和(しやうわ)30年(さんじゅうねん)には約(やく)114万人(まんにん)ほどであったが、平成(へいせい)元年(げんねん)には約(やく)22万人(まんにん)、平成(へいせい)19年(じゅうきゅうねん)には3万人(さんまんにん)以下(ぎや)となった。このところ(ところ)は再び(ふたたび)増え始め(ぞうえはじめ)、今は4万人(よんまんにん)超(こ)えつつある。ただ、関係者(かんげいしや)の話(わたり)によると、「信教(しんきやう)の自由(じゆう)」という理由(りゆう)によって、鳥居(とりい)の手前(てまへ)で解散(さんさん)し、せっか(せ)かくの伊勢(いせ)神宮(じんぐう)である(ある)のに、おかげ横丁(おかげよこぢ)で遊(あそ)んで帰(かえ)るだけ(だけ)という生徒(せいと)もいる(い)るという。

修学旅行(しゆがくりょこう)なのだから、テーマパーク(てまーぱーく)に行く(い)くよりは、伊勢(いせ)、京都(きんぐ)、奈良(なら)など(など)、まずは日本(にっぽん)の文化(ぶんか)の源流(げんりゆう)に足(あ)を運び(は)き、日本(にっぽん)の国柄(こくがら)や先人(せんじん)の心(こころ)に触(ふ)れること(こと)の意義(ぎぎ)を見つめ直(ただ)してほしい(ほしい)と思う(おもう)。グローバル(ぐらうばる)な人間育成(にんげんそくせい)には、まず(まず)自国(こく)の文化(ぶんか)を学(まな)ぶこと(こと)が欠(か)かせない(ない)。ゲーテ(ゲーテ)も「最も(とほ)も国際的(こくさいてき)なもの(もの)は、最も(とほ)も民族的(みんぞくてき)なもの(もの)」と語(かた)り、リンカーン(リンカーン)大統領(だいとうりやう)は「国民(こくみん)は記憶(きおく)の糸(いと)でつなが(つな)がっている(い)る」と言(い)っている(い)る。

ところで、私は(わたし)昨年(こぞ)秋(あき)の式年遷宮(しきねんせんぐう)「遷御(せんご)の儀(ぎ)」に参列(さんれつ)し、間近(まぢか)に奉拝(ほうぱい)させていただ(た)いた。このたび(たび)は平成(へいせい)17年(じゅうしちねん)より8年(はちねん)の歳月(さいげつ)をかけ(か)け、御装束(ごそうそく)、神宝(かみたから)、正殿(せいでん)などを新(あらた)し

■ 解答乱麻 ■ 日本の深さと瑞々しさ生かせ



・えり子(えりこ)は、リビン(リビン)首相(しゆしやう)担(たん)当(とう)の母(はは)。1男(おとこ)2女(めいよ)の母(はは)。<やまに>またに、リビン(リビン)首相(しゆしやう)担(たん)当(とう)の母(はは)。<こ>新聞(しんぶん)編集(へんしゆ)長(ちやう)官(くわん)補(ほ)佐(さ)官(くわん)など(など)歴任(れきにん)。1男(おとこ)2女(めいよ)の母(はは)。

参院議員 山谷えり子

しく期限(きげん)通りに整(と)えてきた(きた)のであ(あ)る。かしこみつつ一意(いちい)専心(せんしん)、1300年(さんびやうねん)にわた(わた)って20年(にじゅうねん)ご(ご)の遷宮(せんぐう)を重(おも)ねてきた(きた)民族(みんぞく)のありよう(ありよう)は、何(なに)と無(な)比(ひ)である(ある)こと(こと)かと感(か)じ入(い)った。日本(にっぽん)の文化(ぶんか)が、道(みち)を求(もと)めてや(や)まない深(ふか)さと同(おな)時に瑞々(みずみず)しくある(あ)る所(ところ)を見(み)る思(おも)いがした(した)。

中学校(ちゅうがく)の教科書(こくこ)の中には、現代(げんたい)っ子(こ)に理(り)解(かい)しや(し)やすいよう(よう)全国(こくご)のコンピニエンスストア(コンビニエンスストア)4万5千(よんまんごせん)店(てん)に對(たい)し、神社(じんしゃ)は8万1千(はちまんいちせん)社(しゃ)、寺院(いんげん)は7万7千(ななまんしちせん)寺(じ)と、宗教(しゆく)心豊(こころゆたか)かな社会(しゃかい)である(ある)こと(こと)を数字(すうじ)で示(し)すコラム(こらむ)も見(み)られる(られる)。

60年前(むそねん)の甲午(こうま)の年(とし)は、日本(にっぽん)の主権(しゆけん)回復(かふふく)2年(に)目の年(とし)であった(であ)った。学校(がく)給食法(きんじきほう)が公布(こくぷ)され、経済白書(けいざいはくしよ)の副題(ふくだい)は「地固(ぢこ)めの時(とき)」で、巻(ま)では、「お富(とみ)さん」「ひばりのマドロスさん」などの歌(うた)が流(なが)れ、ラジオ放送(らじおほうそう)の中で花菱アチャコ(はなびしあチャコ)が言(い)う「むちゃくちゃ(むちゃくちゃ)でござ(ござ)ります(ります)がな」の言葉(ことば)が流行(りやう)語(ご)とな(な)った(た)。

明治(めいし)、大正(たいし)生まれ(うまれ)の先輩(せんぱい)が戦後(せんご)の復興(ふきぎん)に向(むか)ひたす(た)るに勉(つと)めてく(く)ださ(さ)った60年(むそねん)前(まへ)の甲午(こうま)の時代(じだい)の力(ちから)に感(か)謝(しゃ)し、平成(へいせい)生まれ(うまれ)の子(こ)らが持(も)てる力(ちから)を出(だ)しき(き)れるよう(よう)本年(こねん)の通(つう)常(じょう)国会(こくかい)は、教育再生(こくやうさいせい)国会(こくかい)として(して)い(い)きたい(たい)。「今(いま)の若者(わかしよ)は…」と批判(ひはん)する(す)ることは古(ふる)代(だい)エジプト(エジプト)の時代(じだい)か(か)らあ(あ)った(た)と言(い)わ(わ)れて(て)いる(る)が、平成(へいせい)の日本(にっぽん)の若者(わかしよ)の学力(がくりき)〔読解力(よんかいりき)、科(か)学的(がくてき)リテラシー〕はOECD(オーエスディ)諸(しよ)国(こく)でト(ト)ップ(ップ)と報道(ほうど)され(れ)た(た)ばかり(ばかり)であ(あ)る(る)。なん(なん)と頼(たの)もしい(しい)では(では)ない(ない)か(か)。

悠久(きうきゆう)の歴史(れきし)をもち(もち)ながら(ながら)、「常(じょう)若(わかしよ)の国(こく)」である(ある)日本(にっぽん)に生(な)ま(ま)れた(れ)た(た)こ(こ)とに感(か)謝(しゃ)である(ある)。